

17. 学術委員会報告

学術委員会から日本数学会季期研究所 (MSJ-SI = Mathematical Society of Japan, Seasonal Institute) について報告致します.

●2021 年度の第 14 回日本数学会季期研究所 (MSJ-SI) は, テーマを「New Aspects of Teichmüller Theory」, 組織委員長を大鹿健一氏 (学習院大学) として, 前半のプログラムが 2022 年 7 月 17 日~30 日の日程で学習院大学と東京大学において開催されました. 後半の workshop は 2023 年 7 月 9 日~15 日に東京大学において行われる予定です. 詳しくは, 以下のサイトをご覧ください.
<https://sites.google.com/view/msj-si-teichmuller/home>

●2022 年度の第 15 回日本数学会季期研究所 (MSJ-SI) は, テーマを「応用特異点論の深化と展開 (Deepening and Evolution of Applied Singularity Theory)」, 組織委員長を西村尚史氏 (横浜国立大学) として, 2022 年 11 月 20 日~25 日に開催される予定です. 詳しくは, 以下のサイトをご覧ください.

<https://sites.google.com/view/MSJ-SI2022/>

●2023 年度の第 16 回日本数学会季期研究所 (MSJ-SI) は, テーマを「楕円可積分系, 表現論, 超幾何関数 (Elliptic Integrable Systems, Representation Theory and Hypergeometric Functions)」, 組織委員長を今野均氏 (東京海洋大学) として, 2023 年 7 月 26 日~28 日 (school) および 7 月 31 日~8 月 4 日 (workshop) に開催される予定です.

●2022 年 5 月末日が締切であった 2024 年度 MSJ-SI の公募に対し, 2 件の応募がありました. 決定までしばらくお待ちください.

●2025 年度 MSJ-SI テーマ公募について

2025 年度 MSJ-SI についてテーマ公募を開始します. 締め切りは **2023 年 5 月 31 日** です.

MSJ-SI は, 以下の特徴を持ちます.

・数学会から 200 万円の助成金が提供され

ます.

- ・東アジアの数学会の協力のもとで, 韓国と台湾から限られた人数の大学院生・若手研究者が派遣されます.
- ・専門家向けの講演とともに, 大学院生・若手研究者向け, あるいは周辺分野の研究者向けにサーベイ形式の講演を行って頂きます.

応募される方は, 締切までに, 研究集会のテーマ, 提案理由, 主要な講演者 (事前承諾不必要), ダイバーシティに配慮した点を学術委員長までお送りください. また, 下記メールアドレスへの事前の問い合わせも歓迎いたします.

送付先: 日本数学会学術委員会委員長
塩谷 隆

電子メール: [shioya\(at\)math.tohoku.ac.jp](mailto:shioya(at)math.tohoku.ac.jp)

郵便: 〒980-8578

宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 6-3
東北大学大学院理学研究科数学専攻

詳細については, 本号に掲載の公募要領を参照して下さい.

(学術委員長 塩谷隆 記)